

伊予市

じんけん教育



一人ひとりの人権が尊重される
明るい伊予市をめざして



●編集・発行
伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部
〒799-3113 伊予市米湊 820 番地
TEL 089-982-5155 FAX 089-982-5156



大切に
自分らしさを

双海中 1年 武田美桜



見つけよう
一人一人の個性を

北山崎小 6年 高石 蘭

伊予市人権啓発 作品の紹介

今年度も人権啓発・人権意識の高揚を目的とした、人権啓発作品を募集したところ、市内各学校・家庭・地域よりたくさんご応募いただき誠にありがとうございました。

応募数は、小学生315点、中学生67点、高校生15点、成人149点、総数546点でした。最優秀、優秀に輝き入賞された皆様、おめでとうございます。

今号では、受賞作品の一部をご紹介します。

人権詩 最優秀作品

みんなの十人十色

北山崎小 4年 黒川万梨

あの子はおとなしい性格
そう

青色のように

いろんな色があるからこそ

にじのように

明るくなる

いろんな色があるからこそ

ぬりえのように

おもしろい

みんなとちがつているって

悪いことじゃない

十人十色

みんなの個性



北山崎小 4年 橋田 蘭

人権ポスター
優秀作品



中山小 5年 亀崎 結愛



郡中小 4年 山下 咲幸

人権ポスター 最優秀作品



伊予農高 1年 谷口 愛華



双海中 3年 武田 美姫

色のきまり

伊予小 5年 池内 碧

おばあちゃんは昔、黒のランドセルがよかったらしい

それは、黒が好きで、かっこいいと思ったからだと思う

でも、おばあちゃんは、ひいおばあちゃんにうつ止められたらしい

「黒のランドセルは男の子が持つものだよ。やめておきなさい」と

だから、おばあちゃんは赤のランドセルを使うしかなかった

それを聞いて、私はこう思った

「男の子、女の子の色のきまりなんてないのに、そんなのだからきめたの」と



人権ポスター

優秀作品

北山崎小 5年 細川 明史

「やめて」の一言で守れるもの

郡中小 6年 攝津 昭人

自分がだれかに
いじめられている時は

「やめて」の一言で

自分を守ることができる

友達がいじめられている時は

注意したいのに

なかなか言葉が出ない

でも、そんな時は

勇気を出して

思い切って

「やめて」と言えば

友達を守ることができる

「やめて」の一言で

自分も友達も

守ることができる

同じ空を見ている

中山中 2年 奥岡 純佳

何を見ていたのだろう

冷たい 冷たい船の中

母の名を呼び

壁を叩いて痛くなった手

何を思っていたのだろう

遠い 遠い国の中で

夢を抱いて 砕かれた

空は動いて 日は昇る

人は忘れる

人は見て見ぬふりをする

私に何ができるのだろう

私たちに何ができるのだろう

もう一度笑顔を咲かせるために

もう一度夢を抱けるために



中山小 6年 沖野 陽菜香

人権ポスター

優秀作品

人権作文 最優秀作品

笑顔の芽

伊予小 4年 河野 葵帆

「みなさんは、笑顔を大切にしていますか。」

わたしの曰じようには笑顔がたくさんあふれています。家族みんながいつも楽しく笑ってくらしています。友達とはけんかせず、ずっと笑い合っています。だから、わたしの世界はいつも幸せです。私にとって笑顔は、元気のみなもとであり、とても大切なものなのです。

でも、笑顔でない人を見ることがあります。友達とけんかしたり、家族や先生にしかられたりしたことで、笑顔がなくなることは理かいです。でも、「なんとなく」とか「そもそも笑顔のつくり方が分からない」という理由で、つまらなそうに生活している人を見ると、「なんでそうなの。」とふしぎに思ってしまう。わたしはそんな

な人たちにも笑顔になってほしいです。

笑顔は、みんなを幸せにするまほつです。まほつですから、そのまほつをかけて、笑顔をつくる人がいますよね。それは、「だれか」ではありません。「自分」がつくるのです。ただ待っていても起こるものではないと思います。「そんなこと言われても、自分には笑顔はつけれない。」と、思っている人もいるかもしれません。でも、笑顔をつくるのって、そんなにむずかしいことではないと私は思います。

まずは、笑顔の力を信じてください。だれよりも先に自分が笑顔になったら、みんなも幸せになります。そのことに気付いて笑顔いっぱい生活している人は、いつもかん単に笑顔をつくっていると思います。笑顔の芽は、「自分」なのです。

次に、笑顔をつくることをさがしてみましよう。それは、笑顔のすてきな人をよく見て、まねしてみることです。自転車と

じで、笑顔のつくり方が分ければ、これからずっとできるはず。何でも練習が大切ですね。

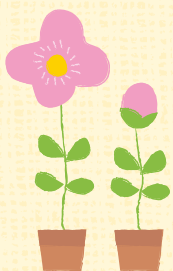
それでも、笑顔がつかない人は、そのなやみをだれかに相談してください。わたしは相談されたら、どうしたらいいか、いっしょに考えます。そして、私が笑顔いっぱい話します。いっしょに笑顔になっていきましよう。

このような少しの努力で笑顔の芽は出ます。そうなれば、あとは笑顔の花をさかせるだけです。きつと、すぐに笑顔マスターになれるはず。私は、みんなが笑顔で幸せな世界をねがっています。きつと、あなたの笑顔を待っている人は、たくさんいるはず。

笑顔って最高です。

笑顔は大切です。

そのことをみんなが感じられる世界をつくりたいと思います。



「平和を願って」

「LOVE&PEACE」

郡中小 5年 藤本 紗風

二年半前、ロシアとウクライナの戦争が始まりました。私はそのニュースを見てショックを受けました。自分と同じ子どもたちが、おびえて泣いているすがたを見て、現実で起きていることは理解できませんでした。

五年生になって、学校の総合的な学習の時間で「世界を旅する人」に出会いました。中矢さんです。中矢さんは、二十才から旅を始め、これまでに、ウクライナ、韓国、インドネシアなど、八十の国や地域を訪れています。国際理解や生き方、命、平和、SDGs、貧困などについて講演会を開いています。

私の中矢さんの話を聞いて、一番心に残ったのは、インドでの話です。それは、「死を待つ人々」という題名で、最初は少し意味がよく分からなかったのですが、話を聞いていると、なんだかすごく内容

だと分かりました。インドでは、道ばたに

親のいない赤ちゃんが置かれていたり、死ぬのをただ待っている人もいたりしたそうです。中矢さんは赤ちゃんにお金をあげようか迷ったそうですが、迷った末お金をあげることがはしませんでした。でも、後から後悔したそうです。その時、中矢さんは「人が生きる権利って何だろう」と思ったそうです。そのお話を聞いた私も「人が生きる権利って何だろう」と思い、調べてみることにしました。

まず、「人権」という言葉から私が思いつくのは「自由」や「自分で決めることができる」「生きる権利など、人がもつ権利」ということでした。調べてみると「だれもが生まれながらにしてもっている人間らしく、自分らしく生きる権利」と書いてありました。でも実際は、インドの赤ちゃんと同じように親のいない子や、ただ死ぬのを待っている人がいたり、日本では、ぎゃくたいされて死んでしまう子やいじめなどで自殺してしまう子がいたり、人権が守られていない子どもが多いことに改めて気付

かされました。

そこで、私に今何ができるかを考え、ぼ金活動やウクライナの子どもたちにおもちやを送る活動にも参加しました。これからずっとウクライナの子どもたちをわすれず、私たちにできることを続けたいです。

そして、これからも「人権」を意識して、身近なことでは、学校でのいじめやいじめなどで苦しむ人がいないように、周りを見ながら行動したいです。もし、苦しんでいる人がいたら、話を聞いたりいっしょに行動したりするように心がけたいです。いじめやいじめ、戦争がない世界をみんなの力でつくりたいです。



自分の中にある 差別や偏見の気持ち

郡中小 6年 七條 陽菜

私がこのテーマで作文を書いたのは、私の中の差別や偏見が、どのような場面で生じてしまうのだろうか、気になったからです。

私自身が差別や偏見をしてしまっていると思うきっかけは、人の見た目です。「太ってれば、食べ方が汚そう。あせのにおいが強そう。」「筋肉が付いてガッシリしていれば、強そう。こわそう。泣くことなんかなさそう。」「体が細ければ、弱そう。運動していなくて体力がなさそう。」などと自分勝手に偏見で人を判断してしまうことがあります。

この見た目の偏見は、学校や街中などで、だれもが一度はしたことがあるのではないかと思います。ですが、差別や偏見は見た目だけではありません。

差別や偏見は、主に人種や、性別、年れいなどがきっかけで生まれます。これらの

差別や偏見は私だけでなく、まわりのだれでも感じてしまうのではないかと想像してしまいます。では、人はどうすればこの差別や偏見の気持ちをなくすることができるのだろうかと自分なりに考えてみました。

差別や偏見の心はどのような時に生じるのでしょうか。例えば、「私は、この人のことをよく知らないけど、みんながこの人の悪口を言っているから、私も言おう」などと深く考えないで行動してしまっているのではないかと思います。

に悪口を言ってしまう場合や、周りに流されて思わず言ってしまう場合、過去に一度自分がひどいことをされたり、言われたりした相手に無意識に言ってしまう場合などが考えられるでしょう。実際、私は三つ目の場合が多いなと思いました。

差別や偏見を悪いと思っていない無自覚、悪いと思っている自覚など、自分の心の中をすぐに改めるのは難しいことかもしれません。でも、自分の中の差別や偏見の心に気付く、正しい行動をとれるよう自分自身と戦わなければいけないと思います。

人権ポスター 優秀作品



翠小 4年 伊豫 愛莉

「気付く側」から 「気付かせる側」へ

伊予中 3年 武智 大和

「部落差別」この言葉を聞いたのは小学生の頃だった。「百年のバトンを受け継いで」という題で授業を受けたのを今でも覚えていいる。しかし、当初の自分は「かわいそう」や、「今の生活に感謝」など、どこか他人事にとらえて、心のどこかで差別という現実味の無かった言葉に対して深く考えることができていなかった。そのことに気付き始めたのは、中学二年、三年と参加した人権フィールドワークがきっかけだった。そこで差別を受けた方々の話を聞いた、差別の歴史を深く知ったりした。生まれた地域が違っただけでどうして差別を受けなければならぬのだろうか。差別された人たちが一体何をしたのだろうか。怒り混じりの気持ちが溢れた。また、フィールドワーク中に聞いたある言葉に自分の心の殻が破れた気がした。その言葉とは、「差別を知るではなく、差別をなくす」という言葉で

ある。当たり前と思うかもしれないが、知識として差別を知るだけでは、何の解消にもならない。差別を正しく知り、行動に移すことでだんだんと差別が減っていくのだと気付いた。その「行動を起こす」人を増やすために、差別の知識を自分だけのものとせず、周囲に伝えることが大事なのではないか。

周囲に伝えることの大事さに気付いたもう一つのきっかけがある。それは、夏休みに初めて参加した人権フォーラムだった。様々な団体による発表の中で、特に印象に残ったのが「鹿と共に生きる」という発表だった。題名を見たとき、部落差別とう関係しているのか分からなかった。自分たちの身の回りには、様々な日用品があり、その裏では製造している人がいる。ある地域では、野生の鹿による被害削減のために鹿を狩っている。しかし、それだけでなく食肉や皮の加工など工夫していた。発表では、皮をなめす技術や、鹿を捌く様子を動画で見せて頂いた。動画の中には鹿の骨や血の付いた肉なども写っていて、少し怖

かったが、見終わって加工する人への尊敬の念を抱いて、その時初めて気付いた。昔、差別をなくそうとした人もそう感じていたのではないかと。命を扱うことは決して簡単なことではない。人のために働いていた方を差別するなど、恩をあだで返すようなことを絶対にしてはいけない。そう気付かされた。

これらの学習を通して、私は大切なことに気付かされっぱなしだった。さらに、人権フォーラムでは他校の同じ中学生も舞台に上がっていて感銘を受けた。私も気付かされるだけではなく、差別をなくすために進んで行動し、いつかは気付かせる立場になりたい。差別のない世界にするために。



人権標語 最優秀作品

◆ とんでいけ
こころのなかの いじめむし

北山崎小 1年 高橋 澄玲

◆ あげたいな
ぼくがもらった ありがとう

由並小 2年 西村 悠李

◆ 育てよう
やさしい気持ちと えがおのたね

伊予小 3年 大山 連

◆ キラキラの
みんなの笑顔は 仲良しの種

中山小 4年 岡山 夏渚

◆ そうなんだ！
個性を知って 広がる仲間

北山崎小 5年 水口 碧

人権ポスター 優秀作品



伊予小 6年 水口 結菜



北山崎小 5年 行定 雫

人権ポスター 優秀作品



中山中 3年 逢沢 紀乃



中山中 2年 下柳 咲葵

◆ 「ありがとう」
暮らしの中の あい言葉

佐礼谷小 PTA 横山 裕輝

◆ 考えよう
私の言葉 あの子の気持ち

伊予農高 2年 金子 千絵瑠

◆ その言葉
相手の目を見て 言えますか

中山中 3年 宮田 彩矢

◆ 広げよう
正しい知識と 笑顔の輪

伊予中 2年 平井 美帆

◆ その気遣い
必ず誰かに 届いてる

港南中 1年 石丸 煌

◆ 未来へ咲かそう 幸せの花
つみとっていこう いじめの芽

伊予小 6年 奥川 朝日

優秀入賞者

人権標語の部（一般）

南山崎小	PTA	石村 久美子
南山崎小	PTA	池内 順子
北山崎小	PTA	河野 勇人
北山崎小	PTA	石村 昌弘
郡中小	PTA	大萩 希
郡中小	PTA	梁田 光
郡中小	PTA	岩城 棕太
郡中小	PTA	徳永 裕貴香
郡中小	PTA	川村 聖子
伊予小	PTA	阿部 美紀
伊予小	PTA	片岡 知代
伊予小	PTA	篠崎 亜里沙
翠小	PTA	平野 里奈
翠小	PTA	城戸 直貴

人権標語の部（児童・生徒）

北山崎小	1年	渡部 由徠奈
郡中小	1年	月原 柚絆
北山崎小	2年	大本 奈海
郡中小	2年	仲田 未玖
郡中小	3年	武智 紗英
佐礼谷小	3年	福岡 統
郡中小	4年	丸木 咲雪
翠小	4年	伊豫 愛莉
南山崎小	5年	福岡 茜里
由並小	5年	岡田 まひる
郡中小	6年	横本 吏玖
下灘小	6年	金山 蒼依
港南中	1年	三ツ井 愛莉
伊予中	1年	高田 久遠
港南中	2年	稲井 瑠璃
中山中	2年	宮本 禮玄
港南中	3年	神尾 優月
双海中	3年	福岡 静七
伊予農高	2年	福原 利玖
伊予農高	3年	池本 翼

人権作文の部

友達となかよくするために

下灘小 4年 亀岡 ほの香

しょうがい者に対するいじめや差別

北山崎小 5年 山邊 珠里

笑顔

北山崎小 6年 高井 歩夢

共生できる社会へ

双海中 2年 大野 伶音

人権詩の部

心の天気

郡中小 4年 二宮 遙架

言葉

翠小 5年 友澤 憲真

お礼

下灘小 6年 福井 翔

平和で優しい世界

中山中 拉致問題学習グループ

豊かな心を育み、差別解消に向けて
行動できる実践力を養う人権・同和教育の推進
生徒が輝き 地域が輝き 未来が輝くために

愛媛県立
伊予農業高等学校

伊予農業高校は、令和5・6年度

愛媛県高等学校人権・同和教育研究指定校の指定を受け、「豊かな心を育み、差別解消に向けて行動できる実践力を養う人権・同和教育の推進」生徒が輝き 地域が輝き 未来が輝くために」という研究主題のもと、研究に取り組んでいます。9月19日には県内各地より100名を超える多数のご参加をいただき研究発表会を行いました。今回の研究発表の中から、生徒の活動を中心とした本校での取組の一端をご紹介します。

本校では各学科で様々な体験学習を行っています。植物や動物を育てる体験は、命の尊厳を実感します。また、共同作業をする中で、相手の立場に立ち、気持ちに寄り添うためにどうすればよいかを考える力を養います。そして、考え

たことを行動に移す実行力を養います。このように本校ならではの体験学習は、豊かな心と人権尊重の姿勢を育て、より良い社会に向けて行動する実践力を養う場となっています。

日々動植物と向き合うことで、生命を尊重する心を養うとともに、異世代との交流や体験活動を通じて、他人を思いやる心を育んでいます。異世代との交流活動として伊予市内の保育園やこども園で園児と一緒にイペーの苗木の定植を行いました。

【生物工学科】

園芸作物の栽培を通じた幼児との交流活動（野菜及び花苗植え、ミカン収穫等）を通して、農業の

【園芸流通科】

園芸作物の栽培を通じた幼児との交流活動（野菜及び花苗植え、ミカン収穫等）を通して、農業の



【イペーの苗木の定植】



【ミカン収穫交流】

【環境開発科】

2018年度よりGLOBAL G.A.P.の認証を継続取得し、東京オリンピックの選手村にもお米を提供しました。農作物を食す出会ったことのない誰かのため、安全安心な農作物の生産が大事だと考えるようになった生徒も多くい

ます。また、水稻栽培を通じて保育所との交流学习を行い、人権感覚の基盤である豊かな感受性や相手を思いやる心を育んでいます。



【保育園児との稲刈り】



【畜肉加工講習会】

職業であることを理解するためにも必要です。



【ゲームを通して指先の訓練実習】



【キクラゲの調整作業】

【食品化学科】

3学年の選択授業では、畜肉加工について学習を深めています。枝肉をそれぞれの部分で切断し、どのような加工品になるかの説明を受け、自分たちも実際に刃物を入れる実習を行います。この実習は生命を尊重する心を育み、食肉加工業が私たちの食を支える大切な

【生活科学科】

就労継続支援B型事業所とグループホームを訪問し、高齢者との交流を体験するとともに、障がいのある方の仕事を理解する学習を行っています。この交流を通じて、生徒は年齢や障がいの有無などに関わらず、全ての人が地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていけ

る共生社会の実現に向けた意欲を高めています。

【特用林産科】

地元企業での農福連携に係る実習として、障がいのある人と一緒に実習を行っています。今年度は栽培しているキクラゲの収穫、調整、選別、洗浄といった作業を実施しました。生徒は、障がいを正しく理解するとともに、共生社会の実現のために必要な態度を身に付けるきっかけとなりました。

他に、人権委員会を中心とした生徒による自主的・主体的な活動の取組により人権が尊重されるクラスや学校づくりを目指しています。

また、教職員の各種研修会等への積極的な参加と報告による情報共有、保護者への啓発活動の充実、地域の関係機関や小・中学校との連携強化等の取組を通して、今後も生徒が輝き 地域が輝き 未来が輝く人権・同和教育の推進を目指してまいります。

第26期オピニオンリーダー養成講座

◆第2講 8月7日（水）

テーマ／子どもが、子どもで

いられる地域に

講師／友川 礼（松山東雲女子
大学人文科学部准教授）



【第2講 友川講師】

令和6年6月の、子ども・若者育

成支援推進法改正において、ヤン

グケアラーは「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っている」と認められる子ども・若者と法的に定義されたことにより、子ども・若者を連続的、長期的に支援できるスタートに立ったといえる。「過度に」の状況判断は、次の子どもの権利が守られているかという視点から考えることができる。

- 生きる権利
- 育つ権利
- 守られる権利
- 参加する権利

ヤングケアラーに該当する児童

生徒の「過度な」日常的状況は、

- 幼いきょうだいの世話
- 家族に代わっての家事
- 障がいや病気のある家族の世話
- アルバイト等をしている。

ヤングケアラーが見過ごされやすい主な理由としては、

- 家族のことは家族がしないといけないと思っている。
- 当たり前となり、自身がケア負担に気付かない。
- 役割だと思っている。
- 障がいや病気の家族のことを隠している。
- 相談できると知らない。



【YES を提示する受講生】

- 定期的に会って何気ない会話を重ねる。
- 最後まで話を聴く。
- 大人側の価値観で褒めない。押し付けない。
- 時間をとって、じっくり話を聴く。
- ケアに対する想いは多様と認識する。
- 担っている役割やケアは否定しない。
- 総計に家族を責めたり、悪く言わない。

子どもやその家族との信頼関係を構築するためのヒントは、

【受講者の感想（一部抜粋）】

- 「虐待よりもヤングケアラーの方がしんどいと思う」という友川先生の言葉は胸に刺さりました。私は母の介護をしていましたが、家族ゆえのしんどさがありました。人間関係が薄くなっ
- ていく経験もしました。子ども達には、その思いを感じさせないように、自分の未来をあきらめないで進むようにしてほしいです。
- ヤングケアラーが見過ごされやすい理由について理解を深められた。当事者へのヒヤリングや調査に基づいた話に多くのヒントがあった。子どもの権利を考えると、判断に迷いそうなところも明確な線引きができるのではないかと自信が持てた。社会のみんなで付き、考えていくには、まず、あまり難しく悩みすぎず、話しやすい環境づくりが必要だと感じた。

◆第3講 10月8日（火）

テーマ／子どもたちの多様性を

可能性に（4）

―障がいな「理解する」

とつとつ―

講師／相原 勝

（中山中学校 校長）



【第3講 相原講師】

差別のない社会の実現に向けて、

令和6年4月施行の**改正障害者差****別解消法**において、事

業者における障がいのある人への合理的配慮の提供が義務化された。

「合理的配慮」とは、

障がいのある方の人権が障がいのない方と同じように、教育や就業、その他の社会生活に平等に参加できるよう、それぞれの障がい特性



【熱心に講話を聞く中学生】

や困りごとに合わせて、個別具体に行われる配慮のこと。その場合、互いの事情を理解しながら、相談し無理のない範囲でできる対応をしていくことが大切である。

「障がいな理解する」とは、障がいの特性のみに視点を当てて、「困難さを知る」ことだけにとどまってはならない。その周りの人が、実際の生活場面で障がいな理解として問題でなくなるための「知見」を広め「かわり」を深めていくことが大切である。社会全体で心の在り方を変えていく「心のバリアフリー」を目指さなければならない。

令和5年4月施行の**子ども基本法**

において、すべての子どもが健やかに成長でき、将来にわたって幸せに生活できる「こどもまんなか社会」実現の重要性が示された。

特別な支援や配慮を要する子どもであるか否かにかかわらず、どのような環境に生まれ育っても、また、心身・社会的

にどのような状況にあっても、多様な全ての子ども一人ひとりを対象としている。また、等しく育ちを保障するために、周囲の環境（社会）を整える視点も重要である。

本講座では、子どもの特性に向き合う現状を受講者に伝えるために、自閉症の子どもをもつ母親が登壇されて、講師と二人でトークセッションを展開した。

半年健診で医者から「この子は目が合わない」と言われ、一歳半健診で詳しい検査を勧められた。

相談員さんから「AくんはAくん。特性だよ。」と言われたことが、わが子と正面から向き合えるきっかけになった。

育てにくさを感じるときも、「障がいだ」という目線ではなく、「今は嫌なんだな。待ってみよう」と受け入れられるようになった。

子育てでは、我が子との時間を大切にするため、仕事は日曜休業で、仕事日も18時には帰宅し子育てに専念している。

生活でのルーティーンを守り、Aの成長に合わせて、できるこ

とを少しずつ経験させるように努めている。

社会に望むことは、見た目では障がいがあるように見えないが、Aの行動を見た時に、特性だと認識してほしい。

悩みと喜びを感じながらの子育てではあるけれども、不幸ではなく、Aがいてくれて、ごく幸せで前向きに生きている。

【受講者の感想（一部抜粋）】

○ 悩みを抱えながらも「不幸ではない」という言葉が印象的であった。自分も子育てしやすい環境を意識していきたいと強く思った。

○ 障がいなどに関わらず、正しく知ろうとしないのは、自分が気付かないうちに、誰かを傷つけてしまうことにつながると思えた。障がいは誰にでもあり、困難を感じている人がよりよく生きるために、自分ができることを考えていきたい。